

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の人流機能強化
主な取組	更なる大型クルーズ船の受入体制の構築			
対応する主な課題	③那覇港は日本有数の国際クルーズ船寄港地であるが、旅客ターミナル等が整備されていないため、利用者は炎天下や雨天時に移動を強いられるなど利便性や快適性に課題を抱えている。今後は、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、安全性・快適性・利便性の確保など観光客の受入体制の充実に向けた対応が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
クルーズ船利用者における、安全性・快適性・利便性の確保及びクルーズ船誘致に向けた取組強化に向け、泊頭岸壁における更なる大型クルーズ船の受入、クルーズ船にも対応したコンテナターミナルの岸壁延伸整備、第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		泊埠頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受け入れの取組				
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
	クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備					
	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
国直轄		H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄
		○R3年度： 国において、第2クルーズバースの整備を行った。 ○R4年度： 引き続き国において、第2クルーズバースの整備を行うとともに、令和4年度中の暫定供用に向け整備を推進する。						

様式1(主な取組)

予算事業名	航行安全調査						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度： 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年度中のクルーズ船の寄港は無かった。 ○R4年度： 関係機関と連携し、那覇港におけるクルーズ船の寄港再開に向けて受入体制の構築を図る。	
県単等	委託	18,211	-	19,500	-	-				
活動指標名	泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受入の取組				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	-	入出港要領の策定	入出港要領の改訂	沖縄県クルーズ船受入那覇・南部地域協議会の実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止施設の整備	新型コロナウイルス感染症拡大防止施設の整備	100.0%			
活動指標名	クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	-	コンテナターミナルの岸壁延伸工事完了	-	-	-	-	100.0%			
活動指標名	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	-	国際旅客船拠点形成港湾の指定	第2クルーズ岸壁等の整備	第2クルーズ岸壁等の整備	第2クルーズ岸壁等の整備	第2クルーズ岸壁等の整備	100.0%			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">・那覇クルーズターミナル等において新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組むとともに、第2クルーズパースの整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none">・ウィズコロナを見据えた感染防止対策施設の整備や協議会の実施等により受入体制の構築を引き続き実施したとともに、第2クルーズパース整備の進捗を図った。



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none">・令和元年度に那覇港が国際旅客船拠点形成港湾に指定された。・第2クルーズパースの暫定供用を令和4年度中に予定している。	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年2月以降、クルーズ船の寄港が途絶えている。・国内クルーズについては、令和2年9月に国等から運行再開に向けたガイドライン等が示されたが、外国クルーズについては、未だ運行再開に向けたガイドライン等が示されていない。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none">・クルーズ船の寄港再開に向けて、那覇クルーズターミナル等において新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組むとともに、関係機関や船社と連携し、第2クルーズパースの整備推進を図る必要がある。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none">・当面は国内クルーズの受入再開に向け、受入方針や条件等について関係機関や船社との協議を行い、クルーズ受入体制の構築を図るとともに、日本への海外からの旅行者の入国制限の緩和・撤廃等の状況を踏まえつつ、県観光部局等の関係機関と連携し誘致活動を再開するとともに、受入体制の強化に取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の人流機能強化
主な取組	那覇港コースタルリゾート・ウォーターフロント整備事業			
対応する主な課題	②那覇港では、港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、貨物船と旅客船・フェリーの混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となっており、利便性の向上や効率的で安全な港の整備が求められている。さらに、近年の船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路等の整備が課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
魅力ある観光リゾートとレクリエーションの地形形成を図るため、那覇港における海洋レクリエーション活動に対応したコースタルリゾート及びウォーターフロントの整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			港湾計画改訂			
実施主体	那覇港管理組合、浦添市					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	港湾計画改訂手続き		環境アセスの実施		
		【098-866-2395】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	那覇港コースタルリゾートウォーターフロント整備事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度： 港湾計画の改訂に向けた那覇港長期構想の策定を行った。	
一括交付金(ハード)	委託	-	-	-	-	-	-	県単等	○R4年度： 港湾計画改訂に向け、関係機関との調整を進めて行く。	

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度：	
									○R4年度：	

活動指標名	港湾計画改訂の手続き				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 港湾計画改訂に向けた那覇港長期構想の策定を行った。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	-	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた那覇港長期構想の策定	港湾計画改訂後の環境アセスの実施	20.0%	0 大幅遅れ		進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇港港湾計画改訂に係る港湾施設の配置計画等について、関係機関との調整がR3年度に概ね整い、那覇港長期構想の策定を行ったが、当初の目標年度であるH29年度での策定を行うことが出来ず、進捗状況を「大幅遅れ」と判定した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・港湾計画改訂に向けた長期構想検討委員会開催に向け、那覇港管理組合構成団体間の合意形成に向けた取組を進める。	・港湾計画改訂に向けた長期構想検討委員会を実施し、長期構想の取りまとめを実施した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加等が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・観光地としての快適な周辺環境の整備を実施するため、引き続き、関係機関との調整を密に行い、早期の港湾計画改訂を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・国等の関係機関との調整を密に実施し、令和4年度以降における早期の港湾計画改訂に向けた取組を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の人流機能強化
主な取組	那覇港人流機能強化整備事業			
対応する主な課題	③那覇港は日本有数の国際クルーズ船寄港地であるが、旅客ターミナル等が整備されていないため、利用者は炎天下や雨天時に移動を強いられるなど利便性や快適性に課題を抱えている。今後は、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、安全性・快適性・利便性の確保など観光客の受入体制の充実にに向けた対応が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向け、緑地や利便性向上施設等の整備、クルーズ受入促進事業などを促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	那覇港管理組合					緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
那覇港人流機能強化関連事業									浦添ふ頭東緑地の整備、及び泊港橋における屋根付き歩道の設置を推進する。また、那覇港内において新型コロナウイルス感染症対策を実施する。	浦添ふ頭東緑地の整備、及び泊港橋における屋根付き歩道の設置を推進する。また、那覇港内において新型コロナウイルス感染症対策を実施する。
一括交付金(ハード)	委託	296,689	100,593	76,816	12,952	18,576	30,000	各省計上		
予算事業名		R3年度					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度

活動指標名	R3年度				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備								18,576	順調	浦添ふ頭東緑地の整備完了させたほか、新型コロナウイルス感染症対策として、泊ふ頭旅客ターミナルにおいて新型コロナウイルス感染防止対策施設を整備した。
実績値	利便性向上に向けた整備				利便性向上に向けた整備	利便性向上に向けた整備	100.0%			
活動指標名	R3年度				R3年度					
実績値										
活動指標名	R3年度				R3年度					進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値										浦添ふ頭東緑地の整備を完了させたほか、新型コロナウイルス感染症対策として、泊ふ頭旅客ターミナルにおいて感染防止対策施設を整備することにより、観光客や利用者の安全性・快適性・利便性を向上させたとともに、ウィズコロナに向けた整備に取り組んだ。
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩道や浦添ふ頭東緑地の整備を推進するほか、クルーズターミナルや泊ふ頭旅客ターミナルにおいて、新型コロナウイルス感染症対策の取組を実施する。					<ul style="list-style-type: none"> 浦添ふ頭東緑地の整備を完了させたことにより、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を向上させることができた。 泊ふ頭地区の泊港橋においては、現在耐震補強工事を行っており、本工事完了後に屋根付き歩道を設置する。 ウィズコロナを見据えた感染対策防止に資する施設整備を実施した。 					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年の沖縄県の入域観光客数は減少、減少率ともに過去最大となる等、足下では厳しい状況が続いている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・今後も引き続き観光客・利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向けた施設整備を進めるとともに、那覇港内における新型コロナウイルス感染症対策を進める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩道の設置に必要な整備（橋梁耐震工事）を早期に完了させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策の取組を実施する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港臨港道路整備事業			
対応する主な課題	②那覇港では、港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、貨物船と旅客船・フェリーの混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となり、利便性の向上や効率的で安全な港の整備が求められている。さらに、近年の船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路等の整備が課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港と背後地あるいは那覇港との連携を図るとともに、国際交流・物流拠点の形成に必要な効率的で円滑な貨物輸送を確保するため、臨港道路の整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		浦添線完了				
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
		臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備等				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄
臨港道路整備事業							○R3年度： 国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備を推進した。 ○R4年度： 引き続き、国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備を推進する。	
予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
内閣府計上	補助	25,903	83,524	106,808	108,652	245,071	151,883	内閣府計上
那覇港臨港道路整備事業							○R3年度： 那覇港における港湾2号線改良(液状化対策)工事を実施した。 ○R4年度： 引き続き港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、緊急時の港湾貨物の円滑な輸送を確保する。	

活動指標名	R3年度				R3年度			進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備等					臨港道路の改良等	臨港道路の改良等	100.0%	245,071	港湾2号線改良(液状化対策)を実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、安全・安心な貨物輸送確保への進捗が図られ、順調に取り組んだ。
臨港道路の改良等									
活動指標名	R3年度				R3年度				
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
活動指標名	R3年度				R3年度				
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・国に対し、計画通りの事業実施を要望するとともに、引き続き臨港道路港湾2号線の整備を推進する。	・国に対して臨港道路若狭港町線の早期整備を要望した。 ・臨港道路港湾2号線について、適正な予算確保に努めた。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地震時の災害においても安全・安心な物資輸送、貨物輸送を確保するため、臨港道路港湾2号線は緊急輸送道路に指定されている。

○外部環境の変化

・令和元年度に新港ふ頭地区において総合物流センターが開業する等、臨港道路港湾2号線における効率的で円滑な貨物輸送の重要性が高まっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・臨港道路港湾2号線においては、国土交通省の防災・減災対策等強化事業推進費等を活用し、早期の整備完了に向けた取組を推進するとともに、円滑な貨物輸送のため、国における若狭港町線の早期整備を要望する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・国に対し、計画通りの事業実施を要望するとともに、引き続き臨港道路港湾2号線の整備を推進する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港防波堤整備事業			
対応する主な課題	②那覇港では、港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、貨物船と旅客船・フェリーの混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となっており、利便性の向上や効率的で安全な港の整備が求められている。さらに、近年の船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路等の整備が課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港においては、港内静穏度の向上や粘り強い防波堤の実現のため、防波堤の延伸・改良を行い、利便性の向上や効率的で安全な港の整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
		防波堤の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	国直轄						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄	OR3年度： 防波堤（浦添第一）の整備を実施した。	OR4年度： 防波堤（浦添第一）の整備を推進する。

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度

様式1(主な取組)

活動指標名	防波堤の整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 防波堤（浦添第一）を整備した。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	防波堤の 整備				防波堤の 整備	防波堤の 整備	100.0%		0 順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 防波堤（浦添第一）の整備を実施し、静穏度の向上が促進され、順調な整備進捗に取り組んでいる。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・新港ふ頭地区における「粘り強い防波堤」の整備を促進するため、引き続き国に対して防波堤の整備等の要望を行う。	・浦添第一防波堤については、これまで事業計画していた区間の整備を令和3年度に完了させたが、更なる静穏度向上のため、整備延長の延伸に係る事業計画の変更を行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・平成25年3月の「沖縄地方の港湾における防波堤の耐津波性能評価検討会」において、那覇港の第一線防波堤である新港第一防波堤の一部に安定性不足が確認されている。

○外部環境の変化

・東日本大震災を契機に、交通政策審議会港湾分科会防災部会において「港湾における総合的な津波対策のあり方」が取りまとめられ、港湾における防波堤においても「粘り強い防波堤」とすることを目指すことが示された。

・国における防波堤整備事業は一部完了しているが、依然として港内の静穏度の確保が必要となっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・新港ふ頭地区における「粘り強い防波堤」の整備を促進するため、防波堤整備の早期かつ着実な事業実施を要望していく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・新港ふ頭地区における「粘り強い防波堤」の整備を促進するため、引き続き国に対して防波堤の整備等の要望を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港物流機能強化事業			
対応する主な課題	②那覇港では、港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、貨物船と旅客船・フェリーの混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となっており、利便性の向上や効率的で安全な港の整備が求められている。さらに、近年の船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路等の整備が課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、船舶大型化等に対応するため、那覇港において各ふ頭の機能再編の実施、岸壁等の港湾施設の強化・拡充を図り、効率的で安全な港の整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建設部港湾課 【098-866-2395】					
		機能再編、貨物増大促進事業及び岸壁等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	28,480	51,917	0	14,459	11,887	19,740	一括交付金(ソフト)	OR3年度： 那覇港において既存施設延命化事業及び輸出貨物増大促進事業を実施した。	
予算事業名									OR4年度： 引き続き、那覇港において既存施設延命化事業及び輸出貨物増大促進事業を実施する。	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
									OR3年度：	
									OR4年度：	

活動指標名	機能再編、貨物増大促進事業、岸壁・物揚場等の整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	11,887	順調	既存施設延命化事業として、エプロン改修工事等を実施した。また、荷主を対象とした実証実験を実施し、物流コスト低減や輸送システムの改善等の検証を行った。さらに、航路再編を行った外航船社への補助事業を実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇ふ頭地区において防食工工事を行い、岸壁の安全性が確保された。 また、令和元年度に新規開設された外航航路は令和3年度中も継続運航しており、取組は順調である。
					既存施設延命化等	既存施設延命化等	100.0%			
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 港湾関係者や関係機関と密に調整し、港湾施設の利便性向上や効率的で安全な施設配置の検討を行っていく。 既存施設の状態を適切に把握し、効率的な維持管理に努める。 那覇港管理組合は、那覇国際コンテナターミナル(株)及び那覇港総合物流センター運営企業間による会議実施体制を検討し、国際コンテナターミナルの改善・高度化に向けた検討や、新型コロナウイルス感染拡大の影響下における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 港湾施設利用における現状と課題の整理を行い、利用者のニーズや関心事を把握するため、港湾利用者のヒアリングを実施した。 施設の日常点検を行い、既存施設の状態を把握した。 那覇港管理組合と那覇国際コンテナターミナル(株)との連絡会議において、貨物増加等に向けた各種取組のための会議を実施した。また、那覇港の取扱貨物量の維持・増加に向けて、船社等へのポートセールスを実施した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・那覇港では、港湾施設の狭隘化による利用効率の低下、船舶の大型化や貨物船及び旅客船・フェリーの混在が課題となっている。
- ・老朽化した港湾施設が多く存在しているため、効率的かつ効果的な維持管理を行う必要がある。
- ・更なる国際航路の拡充を図るため、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニーズに対応したインセンティブの検討が求められている。

○外部環境の変化

- ・東京、横浜、大阪、神戸の各港において周辺道路の混雑やドライバーの人手不足などが課題となっており、輸送手段や発着港の転換を図るモーダルシフトなどの動きがある。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大による物流全体の需要低下や海上物流マーケットの高騰などにより、取扱貨物量の減少の可能性がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・荷さばき地や上屋の移転等を含め、新港ふ頭において、効率性及び利便性の高い港湾施設の再編・適正配置を行う必要がある。
- ・安全かつ効率的な港湾施設利用のため、既存施設の延命化が必要である。
- ・那覇港管理組合、那覇国際コンテナターミナル株式会社及び関係機関間で取扱貨物量に対する課題を共有し、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニーズに対応した効果的なインセンティブを検討することで、外部環境の変化の中においても、取扱貨物の維持・増加に努める。

4 取組の改善案 (Action)

- ・港湾関係者や関係機関と密に調整し、港湾施設の利便性向上や効率的で安全な施設配置の検討を行っていく。
- ・既存施設の状態を適切に把握し、効率的な維持管理に努める。
- ・那覇港管理組合は、那覇国際コンテナターミナル(株)及び那覇港総合物流センター運営企業間による会議実施体制を検討し、国際コンテナターミナルの改善・高度化に向けた検討や、新型コロナウイルス感染拡大の影響等における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	① 那覇港の整備
			施策の小項目名	○那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港産業推進・防災事業			
対応する主な課題	②那覇港では、港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、貨物船と旅客船・フェリーの混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となり、利便性の向上や効率的で安全な港の整備が求められている。さらに、近年の船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路等の整備が課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
生活基盤としての那覇港の機能維持・強化のために、旅客待合所、上屋等の耐震化や長寿命化対策等を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			新港ふ頭4号上屋延命化(完了)	新港ふ頭5号上屋延命化(完了)		那覇ふ頭1、2号上屋建替(完了)
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			
		船客待合所・上屋の延命化、耐震化及び建替え等の実施				
		ガントリークレーン延命化等の実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	那覇港産業推進・防災事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度： 那覇ふ頭上屋建替工事を実施した。	
							298,893	県単等	○R4年度： 引き続き、那覇ふ頭上屋建替工事を推進するとともに、新たに、新港ふ頭地区における上屋建替工事に取り組む。	
県単等	補助	408,923	230,363	135,709	174,305	404,311				

活動指標名	R3年度				R3年度			進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			決算見込額合計
	船客待合所や上屋の耐震化、延命化等の実施	船客待合所の耐震改修工事等の実施	船客待合所、上屋の改修工事等の実施	上屋建替設計の実施	上屋建替工事の実施	上屋建替工事の実施	上屋建替工事の実施	88.9%	404,311	順調
ガントリークレーン延命化対策事業の実施	延命化対策工事の実施		延命化対策工事の完了	-	-	100.0%				
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
・老朽化した那覇ふ頭の上屋建替え事業については、令和3年度の事業完了を目指す。					・那覇ふ頭上屋建替事業については、令和4年度上半期中の完了予定である。 ・上屋の老朽化対策の推進のため、新たに新港ふ頭地区の上屋建替事業に着手した。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・上屋整備については、供用中のふ頭内で実施することから、荷役関係者等と工事のスケジュールや手順について連携を図る必要がある。

○外部環境の変化

・荷役関係者より、上屋の建物老朽化による雨漏りや壁の剥落等で荷役作業に支障が出ているとの意見がある。
・上屋の破損や動作不良等老朽化に関する緊急修繕が増えている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・施設の巡回パトロールを強化し、使用者等と連携して、不具合箇所の早期発見、早期解消に努める。

4 取組の改善案 (Action)

・那覇ふ頭の上屋建替え事業については、令和4年度上半期の事業完了を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	② 中城湾港の整備
			施策の小項目名	○中城湾港の整備
主な取組	港湾施設整備(中城湾・新港地区)			
対応する主な課題	④中城湾港新港地区は定期航路がなく、航路サービスが十分でないため、中部圏域の貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくされており、物流効率化や機能分担が不十分となっている。このため、既に供用している西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分担や定期船航路の実現に向けた整備が必要である。また、クルーズ船の寄港回数が増加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な施設等を整備し、持続可能なクルーズ船の受入体制の構築が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
中城湾港新港地区の物流機能の強化を図るため東ふ頭の早期供用に向けた泊地浚渫(船舶が接岸・停泊する水域の浚渫)を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
						事業完了
実施主体	国					泊地浚渫
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 泊地浚渫							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	当初予算額	主な財源	○R3年度: 国直轄により、中城湾港新港地区内の船舶が接岸・停泊する水域(航路泊地)の浚渫を行った。 ○R4年度: 国直轄により、中城湾港新港地区内の船舶が接岸・停泊する水域における新たに追加した事業区間(航路泊地)の浚渫を行う。	
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額				
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄		

活動指標名	R3年度				R3年度	進捗状況	活動概要		
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)			目標値(B)	達成割合 A/B
	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	100.0%	0 順調
活動指標名	R3年度								
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
活動指標名	R3年度								
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
(2) これまでの改善案の反映状況					令和3年度の取組改善案			反映状況	
・県としては、引き続き、国に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。					・国に対し早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・国に対し、事業着手している泊地浚渫の早期整備を図り、順次、東ふ頭計画岸壁の整備を要望する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・県としては、引き続き、国に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	② 中城湾港の整備
			施策の小項目名	○中城湾港の整備
主な取組	クルーズ船の受入体制の構築			
対応する主な課題	④中城湾港新港地区は定期航路がなく、航路サービスが十分でないため、中部圏域の貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくされており、物流効率化や機能分担が不十分となっている。このため、既に供用している西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分担や定期船航路の実現に向けた整備が必要である。また、クルーズ船の寄港回数が増加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
中城湾港新港地区において、大型クルーズ船の寄港要請があり、また、クルーズ船の寄港回数が増加傾向にあることから、大型クルーズ船の寄港に向けた航行安全の検討及び、持続可能な受入体制の構築を図る。		H29	H30	R元	R2	R3
		大型クルーズ船の航行安全検討	大型クルーズ船受入開始			
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
		持続可能な受入体制の構築				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	H29年度						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	
港湾調査費									令和3年度： 持続可能なクルーズ船の受入体制の構築を図った。
県単等	委託	22,053	0	0	0	0	0		令和4年度： 持続可能なクルーズ船の受入体制の構築を図る。

予算事業名	H29年度						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	
									令和3年度：
									令和4年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	持続可能な受け入れ体制の構築				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		大型クルーズ船の航行安全検討	大型クルーズ船の受入体制の構築	大型クルーズ船の受入体制の構築	大型クルーズ船の受入体制の構築	大型クルーズ船の受入体制の構築	大型クルーズ船の受入体制の構築	100.0%	0 順調	H30年より大型クルーズ船を受け入れるにあたり、中城湾港新港地区クルーズ船岸壁割当の岸壁予約の基本方針の見直しを行った。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
・持続可能なクルーズの受入体制の構築を図るため、中城湾港新港地区の物流機能と人流(クルーズ)機能の共存を図る。					・物流に影響が出ないよう、クルーズの割当を行っている。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・持続可能なクルーズ船受入体制の構築を図るため、中城湾港新港地区の物流機能と人流（クルーズ）機能の共存を図る。

○外部環境の変化

・クルーズ需要の高まりを踏まえ、中城湾港新港地区への寄港要請が増大していたが、新型コロナウイルス感染症により寄港回数が減少した。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・中城湾港新港地区の物流機能と人流（クルーズ）機能の共存を図りつつ、新型コロナウイルス感染症の動向を見守る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・持続可能なクルーズの受入体制の構築を図るため、中城湾港新港地区の物流機能と人流（クルーズ）機能の共存を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	② 中城湾港の整備
			施策の小項目名	○中城湾港の整備
主な取組	中城湾港(泡瀬地区)の整備			
対応する主な課題	④中城湾港新港地区は定期航路がなく、航路サービスが十分でないため、中部圏域の貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬入を余儀なくされており、物流効率化や機能分担が不十分となっている。このため、既に供用している西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分担や定期船航路の実現に向けた整備が必要である。また、クルーズ船の寄港回数が増加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な施設等を整備し、持続可能なクルーズ船の受入体制の構築が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
中城湾港新港地区の浚渫土砂を活用した埋立てにより、スポーツコンベンション拠点の形成を図ることを目的とし、護岸整備、浚渫、埋立てを行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		護岸設置・埋立				
実施主体	国、県					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			
港湾施設整備(防波堤・物揚場・臨港道路・緑地等整備)						

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	沖繩振興公共投資交付金(港湾)						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	活動内容	
一括交付金(ハード)	直接実施	567,643	1,141,915	1,186,353	757,298	799,401	139,680	一括交付金(ハード)	○R3年度：緑地護岸(約140m)、養浜(2.8万m ³)の整備を行った。 ○R4年度：緑地駐車場の圧密沈下対策のため載荷盛土(約1万m ³)を行う。	
予算事業名	社会資本整備総合交付金(泡瀬工区)						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	活動内容	
内閣府計上	直接実施	2,376,439	2,393,789	1,717,236	2,549,774	3,519,088	2,864,306	内閣府計上	○R3年度：橋梁上部工の桁製作(112個)、現場打ち桁(6基)、架設(約114m)の整備を行った。 ○R4年度：橋梁上部工の桁製作(48個)、現場打ち桁(9基)、架設(約670m)の整備を行う。	

活動指標名	護岸設置・埋立				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B	4,318,489	順調	緑地護岸(約140m)及び養浜(約2.8万m ³)の整備を行った。 橋梁上部工の桁製作(112個)、現場打ち桁(4基)、架設(約70m)の整備を行った。
	突堤及び護岸基礎整備	護岸部分地盤改良及び護岸基礎整備	護岸基礎整備	護岸整備	護岸整備	護岸整備	100.0%			
活動指標名	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B	4,318,489	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 国事業における進捗率は約70%(完成面積ベース)、県事業における進捗率は60%(事業費ベース)となっている。海上工事の期間に制約があること等から事業計画を見直し埋立竣工を令和11年度と変更したところであるが、計画のとおり埋立に向けて護岸整備を行っていることから順調と判断した。 取組完了後の効果として、スポーツコンベンション拠点の形成が図られ、本島中部東海岸地域の活性化が期待される。
実績値										
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 債務負担行為の活用や効率的な工程計画により整備を推進する。 県民に対し、事業に対する理解の向上を図るため、引き続き、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> 国と連携して、早期整備、部分使用に向けた工程計画の検討を継続的に行っている。 当該事業に関する関心喚起、理解度向上を目的に、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのイベント(「海の日イベント」)開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響からイベントに代わり、事業のPR新聞広告やテレビ特別番組放送を沖縄市が行った。 					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

- ・土地利用計画の見直しに伴い港湾計画変更の手続きを行っている。
- ・埋立事業について、地元の沖縄市等から早期整備の強い要請がある。
- ・年度当初の4月～7月は、トカゲハゼの繁殖時期のため、海上工事を行わないなど、環境に配慮した整備を行っている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・工事期間が短いこと、多数の工事が混在すること等を踏まえ、早期整備に向けた効率的、効果的な整備推進が必要である。
- ・事業を円滑に推進するため、県民に対し、当該事業に関する関心喚起や理解度向上を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。
- ・県民に対し、事業に対する理解の向上を図るため、引き続き、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	③ 圏域の拠点港湾等の整備
主な取組	石垣港の整備		施策の小項目名	—
対応する主な課題	⑤各圏域における交流拠点である本部港(北部)、平良港(宮古)、石垣港(八重山)においては、国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図るため、国際クルーズ船の寄港・就航を促進するための旅客船バースを整備する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
八重山圏域の交流拠点である石垣港において、国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図るため大型旅客船ターミナル整備事業を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		岸壁・防波堤・泊地浚渫等				
実施主体	国、石垣市					大型旅客ターミナル整備等
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			第2クルーズバース岸壁等の整備に向けた取組

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄
予算事業名							令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源							OR3年度: 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行った。	
							OR4年度: 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行う。	

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源
							OR3年度:	
							OR4年度:	

活動指標名	大型旅客船ターミナル整備等				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	100.0%	0	順調	国において、大型旅客船ターミナル整備事業として岸壁等の整備を行っている。令和2年度に岸壁が完成し、第2クルーズ岸壁等の整備検討に向けても取り組んでいる。
活動指標名	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	整備検討	整備検討	整備検討	整備検討	整備検討	整備検討	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										国において、大型旅客船ターミナル整備事業等を計画通りに進めており、順調と判断した。
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
・県としては引き続き、国や石垣市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。					・国に対し早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・県としては引き続き、国や石垣市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

4 取組の改善案 (Action)

・県としては引き続き、国や石垣市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和3年度の取組改善案	反映状況
・県としては、引き続き、国や宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。	・国に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図った。



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
○内部要因 —	○外部環境の変化 —
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
・国や宮古島市に対し、耐震強化岸壁や国際旅客船拠点形成港湾にかかる施設の早期整備等を要望する必要がある。	



4 取組の改善案 (Action)

・県としては、引き続き、国や宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施策	③ 圏域の拠点港湾等の整備
			施策の小項目名	—
主な取組	金武湾港の整備			
対応する主な課題	④中城湾港新港地区は定期航路がなく、航路サービスが十分でないため、中部圏域の貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくされており、物流効率化や機能分担が不十分となっている。このため、既に供用している西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分担や定期船航路の実現に向けた整備が必要である。また、クルーズ船の寄港回数が増加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
平安座南地区において、金武湾、中城湾両港を行き来する遊漁活動やもずくの養殖等で海中道路を南北に頻繁に往来している小型船等の航行安全の確保のため、航路の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		航路浚渫				供用開始
		航路浚渫 平安座南地区				
実施主体	県	臨港道路全長 420m				
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	【098-866-2395】	臨港道路の整備	天願地区		

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		年度別					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
金武湾港(平安座南地区)港湾改修事業									
一括交付金(ハード)	直接実施	121,180	164,311	103,568	85,339	127,156	5,000	一括交付金(ハード)	OR3年度：平安座南地区において、航路浚渫の工事を実施した。 OR4年度：平安座南地区において、航路浚渫の工事を継続実施する。
金武湾港(天願地区)港湾改修事業									
一括交付金(ハード)	直接実施	1,430	—	—	—	—	5,000	一括交付金(ハード)	OR3年度：工事の実施に向け、関係機関との調整を行った。 OR4年度：臨港道路の工事実施に向けた調整を継続する。

活動指標名	R3年度				R3年度 決算見込 額合計			進捗状況	活動概要
航路浚渫 平安座南地区	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	127,156 概ね順調	平安座南地区において、航路浚渫の工事を実施し、事業の進捗を図った。 天願地区においては、関係機関調整に不測の日数を要した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 平安座南地区において、もずくの収穫時期等に配慮して工事期間を制限して実施した。航路浚渫の工事を実施し、暫定供用を開始するなど事業の進捗を図った。 天願地区においては、今後の円滑な工事の実施に向け、関係機関調整を行った。 2地区の進捗状況を勘案し、概ね順調と判断した。
実績値	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	100.0%		
臨港道路の整備 天願地区	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	—	関係機関調整	関係機関調整	調整完了	50.0%		
活動指標名	R3年度				R3年度				
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 平安座南地区の航路整備について、もずくの収穫時期等に配慮して工事時期を5月から9月と制限して実施するとともに、工事の周知や作業区域の明示など適切な安全対策を行い、海洋利用者の安全に配慮する。 無願埋立について国と協議しながら早期の解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 平安座南地区の航路整備について、もずくの収穫時期等に配慮して工事時期を5月から9月と制限して実施するとともに、工事の周知や作業区域の明示など適切な安全対策を行い、海洋利用者の安全に配慮し、事業を推進した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・道路計画地の一部に国有海浜地があり、対応方針の検討が必要である。

○外部環境の変化

- ・平安座南地区の航路整備について、事業箇所付近のモズク養殖場や、事業箇所周辺のマリンスポーツや潮干狩りなど海洋利用者の状況について、適宜確認する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・平安座南地区の航路整備について、もずく養殖場や海洋利用者など周辺環境への影響を極力抑えながら事業の進捗を図る必要がある。
- ・無願埋立については、関係機関と対応方針について協議する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・平安座南地区の航路整備について、もずくの収穫時期等に配慮して工事時期を5月から9月と制限して実施するとともに、工事の周知や作業区域の明示など適切な安全対策を行い、海洋利用者の安全に配慮する。

- ・国有海浜地部分の施工箇所について国と協議しながら早期の解決を図る。